

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原料料名	原産国	含有区分	文献	通正 使用 装置	感染症(PT)	出典	概要
											デング熱	カナダ Public Health Agency of Canada/Travel Health 2007年8月23日	WHO Regional Office for South-East Asiaは、インドネシア、ミャンマー、タイにおいてデング熱症例数は昨年と比較して増加していると報告した。2007年7月現在、インドネシアはデング熱症例102556例を報告し、2006年同時期と比較して17%増加、ミャンマーは9578例を報告し、10%増加、タイは27582例を報告し、6%増加した。アジアおよび太平洋の他の多くの国々でも今年はデング熱が増加している。
635	2007/10/19	70635	わかもと製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人原	中国	有効成分	有	無	ペスト	The UB Post-Leading English News 2007年8月8日	モンゴルKhovsgol aimagで14才の男児が2007年8月2日に死亡し、その後ペスト感染であると確認されたことを受け、Tsetserlegの当局はこの男児と接触していた79人を検疫下においた。Yersinia pestisは男児が捕まえたマーマット由来であると考えられている。男児がマーマットの皮膚病を取り除く際、指が傷ついていた。マーマットの死体から腺ペスト菌が検出された。
636	2007/10/22	70636	日本臓器製薬	低分子ヘパリン	低分子ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無			
637	2007/10/22	70637	日本ビーシー製造	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、ニュー ジーランド	製造工程	有	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Gen Virol 2007; 88: 1048-1055	56頭の子牛に経口的BSEチャレンジを行い、4ヶ月毎に屠殺し、剖検動物のリンパ管ならびに末梢および中枢神経系に属する組織を免疫組織化学的方法および免疫ノブロット法で調べ、PrPScの存在を分析した。その結果、PrPScは自律神経系を介して胃腸管から中枢神経系へ広がっていくことが明らかとなった。非自律末梢神経へのPrPSc浸潤は中枢神経系でのプリオン複製後の2次の逆行現象であった。また、PrPScは感染後24ヶ月の動物の脳幹で検出され、以前の報告より8ヶ月間早かった。
											異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Zoonoses Public Health 2007; 54: 185-190	スクレイピーに感染したハムスターの脳ホモジネートをウシの胃腸管細胞と40時間インキュベートするとPrPScは免疫化学的には検出できないレベルにまで減少したが、このホモジネート処理後、ハムスターの脳内に接種したところ、プリオン感染性は保持されていた。抗プリオン抗体3F4免疫反応性の消失はPrPScの生物学的不活性化と相関せず、TSE不活性化の評価にウエスタンブロットを用いることの欠点が明らかになった。更に、プリオン経口摂取後のPrPScを含む糞による環境汚染の可能性を示した。